福岡県議会議員　井上順吾県政報告　2015年（平成27年）1月1日 木曜日

九月定例議会一般質問

「九州英語村」構想について

第64代 加地邦雄議長のもとで一般質問

質問　10年間、学校で英語教育を受けても、ほとんどの人が英語を話すことができない。今の学校の英語教育だけでは十分ではない現実が背景にある。アジアの子ども達を世界に通用するグローバルな人材として育てることから求められる。英語で英語を学ぶ体験、実践する場が必要と考える。

知事は質問の「韓国英語村」についてどのような所見を持っているか。また世界に通用する人材育成のため、九州各県がそれぞれで取り組むのではなく、「九州はひとつ」という考え方で「九州に一つ英語村」を実現してほしい。教育長には、世界に挑む人材育成費があるが目標は何か、英語村に対する所見はどうか。

知事答弁　九州知事会への提言については、まずは施設や研修の内容、運営方法、日本国内の同種類との比較など、その成果と課題を研究する必要がある。

教育長答弁　英語村は、国内にいながら英語環境に身を置くことができる点で英語コミュニケーション能力の向上に期待できる。

韓国英語村「HEYRI」

十二月定例議会一般質問

「御笠川、高尾川・鷺田川の河川改修について」

質問　御笠川で実施した緊急の河川改修の概要と、これにより大野城市の周辺がどの程度安全になったか。

御笠川上流域を流れる支川・支流の状況をみると、河川の改修状況は十分とは言えない。雨の時期を迎えるたびに河川付近の住民は浸水被害の発生に悩まされており、一刻も早い治水対策の実施が必要と考える。

筑紫野市内の交通の拠点である西鉄二日市駅と、ＪＲ二日市駅の間の店舗や住居が密集した中心市街地のうち、主に、にしてつ通り商店街や、その周辺の住居、約２００軒が浸水するという甚大な被害が発生している。今回浸水した地域は、過去10年間に６回も浸水するなど、いつ再度、浸水被害が起こってもおかしくない。一刻も早い治水対策の実施が必要である。

中心市街地の中で、一般的に行われているような川幅を広げる河川改修を行なった場合は、多くの家屋移転が必要となり、事業が始まっても、用地買収に時間がかかれば、いつまでたっても終わらない。

高尾川・鷺田川の治水対策について、どのような方法によって、迅速な河川改修を実施していく考えなのか。

知事答弁　御笠川の河川改修について、大野城市などの御笠川流域では、平成11年と平成15年の２度にわたり浸水被害が発生した。これを受け、本県は、平成11年から平成20年の10年間に、総事業費４４２億円の、御笠川激甚災害対策特別緊急事業などの河川改修を実施した。

大野城市周辺の具体的な事業の内容としては、仲畑１丁目から下大利団地の６ｋｍの区間について、河川の流下能力を向上させるため、河川の拡幅、護岸の整備、堰の改築などの工事を実施した。

平成15年の豪雨では、大野城市内の牛頸川合流地点で観測史上最大である毎秒７６０トンの流量が発生した。県は、平成11年の浸水被害後に、河川改修に着手していたが、平成15年の豪雨を受けて、流量の目標を７６０トンに改定し、最終的に平成20年に事業を完了している。

従って、現在、御笠川は、過去最大規模の豪雨に対しても、浸水被害が発生しない、安全性が高い河川となっている。

高尾川・鷺田川の河川改修について、県では、抜本的な河川改修を検討している。高尾川は、西鉄二日市駅周辺の店舗や家屋が密集した地域を流れているため、河川を拡幅するには、家屋の移転が必要となり、多額の事業費と事業の長期化が想定される。このため、高尾川・鷺田川の河道断面が小さい区間の、上流側と下流側を結ぶ地下河川のトンネルを掘り、洪水の流下能力を向上させる案を検討している。地下河川のメリットは、家屋移転を最小限にできるので、街並みへの影響が少なく、短期間の工事が可能となる。

洪水時の流れを妨げない河川改修

（板付橋付近）
拡幅・橋の架替え

（一ノ瀬堰）
堰の改築

決算特別委員会

※平成26年11月の決算特別委員会では３つの項目について質疑を行いました。

農業戦略について

質問　今は味覚の秋。何を食べても旬の時期、新米・魚・野菜・肉も福岡県は食の宝庫である。「ふくおか鍋」を思いやりのプレゼントとしたらどうかと県農産物戦略の販売戦略として質問をしてから５年が経過したが、その後どのような展開がされているか。

部長答弁　11月を食育・地産地消月間と定めた。５０９万人の県民を味方につける取り組みをやっている。委員提案の「ふくおか鍋」のような、県産農林水産物を家族みんなで食べる体験、活動を通じて、県民とともに福岡の農業をつくる事業を行いながら県民の広範な支持を広げていきたい。

教育の格差について

質問　今後５年間で約３，５００人程度の教員定年退職者が見込まれる。福岡県の学力向上のため、学校の余裕教室を退職教員に開放できないか。塾の少ない地域、資力がなくて塾に通うことができない家庭もあるという、地域格差が生まれている。教育の格差も生まれている。

ふるさとに帰った退職教員の活用を図れないか。ボランティアでおせっかいをやく活動塾があってもいいのではないか。

教育長答弁　各学校が現在直面している課題、これは大変複雑で困難な状況である。こういう課題を学校の先生だけで解決することは、もはや難しいのではないかと感じている。

福岡の場合の特徴である地域間の学力格差が非常に大きい課題であることは認識している。この問題解決のため、教育に関する知識経験を豊富に持って福岡県に貢献したいという先生はたくさんいるので、その力を借りて学校の課題解決に努めていきたい。そのためには、まず協力する意志、意欲のある先生を確保するための作業がいる。

水城・大野城トレイル整備構想について

質問　国の特別史跡である水城跡、大野城跡などの文化財が存在するこの地域の歴史的価値について、どのようにとらえているか。

また水城跡には、国道、県道、鉄道のほか、築築造時より中央に御笠川が流れていることで、大きく分断されている。全体をつなぐ散策路を整備することは可能か。

文化財課長答弁　六六四年に、「筑紫に大堤を築いて水を貯えしむ、名づけて水城という」と日本書記に記されており、翌年の六六五年には、白村江での敗戦の後に、唐・新羅の連合軍の進行を想定して、この地に築かれたとされている。この日本書記に記された水城の土塁が、千三百五十年の時を経た現在に至っても、その姿を保存しているということは大変大きな歴史的価値を有するものだと認識している。

水城跡をつなぐ散策路については、大野城市・太宰府市・福岡県教育委員会の三者でつくる「水城跡整備事業推進協議会」で策定している基本設計のなかでも、長期的な課題としており、今後とも、地元自治体と十分協議してまいりたい。

河川課長答弁　水城跡・大野城跡や御笠川を散策できるようにしていこうという構想については、御笠川水系河川整備計画に沿ったものと考えている。

県土部長答弁　この「水城・大野城トレイル構想」大変興味深いものとしてとらえている。

トレイル構想の散策路の整備とか、そういったものを具体化していくときは、御笠川を管理する県としては、河川の占用、利用についてできる限りの支援をしていく。

地域を知って、参加して、考えて、伝えて行動する。